

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0470600248
法人名	社会福祉法人白石陽光園
事業所名	グループホーム ながさか
所在地 (電話番号)	宮城県白石市福岡長袋字永坂1番地 (電話) 0224—22—4331

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年11月20日

## 【情報提供票より】(平成20年11月5日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9人 非常勤 2人 常勤換算	10人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	新築/改築○
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(11月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	76 歳	最低	68 歳	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内方医院・仙南サナトリウム・公立刈田総合病院・亘理歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風土に合った旧家を改築した立派な庭園のある恵まれた住まいである。1階に、高齢者9名、2階に障がい者4名の方が住んでいる共生型施設である。玄関を入るとすぐの和室では大きな掘りごたつを囲み、全員で食事を共にし、団欒の場となっている。職員も交え、「行ってきます、ただいま」と声を掛け合い、どのような状況にあってもそれぞれの役割を持ち、共に支え合う皆さんの「家」で、表情豊かで穏やかに生活されていた。時には職員の子供達が学校帰りに「ただいま」と立ち寄ることもある。屋敷内にある空家を改築し、地域の集会場として提供したいとしていた。市町村との連携強化を図っていくことや重度化、終末期に向けた取り組みの課題については、入居者、家族が地域で安心して暮らせるよう改善に取り組んでいただきたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の運営推進会議の開催は実施されている。重度化、終末期に向けた取り組みは進展がなく、今後の課題とする。災害対策に関して、避難訓練は夜間想定訓練を交え2回実施した。課題もあるが、すでに改善されている点もあった。地域住民との協力体制、備蓄に関することは引き続き取り組み課題とする。居心地良く暮らせる居室の工夫においては、入居者と話し合うが現状を希望される方が多く特に改善もなくすっきりとした居室となっていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議を開き、自己評価の設問を説明しながら職員の意見を引き出し、管理者の意見を聞きながら取り組んだ。地域交流の必要性、家族の面会の頻度が少ない事など、いくつかの課題がみえた。できるところから徐々に改善に向けた取り組みをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は地区代表、消防団団長、子供会会長、市町村代表、近所住民9名、入居者、家族、法人統括責任者、職員、管理者代行の構成メンバーで実施した。会議の開催を非常に難しく考え実施までに時間を要したが、参加者からのアドバイスで進行し、地域に向けた防災ベルの音が小さい、緊急時災害の協力要請など、忌憚のない意見、感想が聞かれた。定期的に会議を開催し、運営推進会議を有意義なものとして取り組む事を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「ながさか通信」に入居者の様子を添えて送付し、面会時はその都度状況に応じた対応をしている。共生型施設であり、入居者間での不満も見られたが、職員の対応で解消し入居者はその生活に慣れ、お互いを理解し共に生活を支え合っている。意見、苦情、相談窓口、第三者委員を重要事項説明書に記載し、家族に説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>子供会のラジオ体操に参加するぐらいであり交流はなかったが、関わりの必要性を感じ、町内会の行事の夏祭りや草刈等に積極的に参加するようになった。運営推進会議にも隣近所に声をかけると9名の参加があり、意見を聞く事ができた。これからも地域に支えられ、支えあう関係を築き、地域に根ざしたホームでありたい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「ながさかの思い」として掲げられ、入居者、家族、職員、地域の輪を築き「家」としてあるべく姿を目指し、作り上げた事業所独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が楽しんで生活していただくための理念に向けて、職員としての自覚ではなく、ながさか家の一員として意識統一を図るべく、日頃のケアの気付きをサブテーマに掲げ、申し送りに話し合う等、前向きに取り組む姿勢がうかがえた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自己評価を機に地域との関わりの必要性を感じ、地域に働きかけるようになり、地域の盆踊りや草刈等に参加するようになった。隣近所の方9名ほど運営推進会議に出席し、意見もいただいている。今後、ホームの行事等も考え、地域交流を積極的に取り組んでいきたいと前向きである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議を開いて、自己評価の設問を説明し意見を引き出してから、管理者の意見を取り入れた。地域交流の必要性、家族の面会が少なくなっている等、課題が見えてきたので、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地区代表、消防団団長、子供会会長、行政代表、入居者家族、入居者、法人統括管理者、職員、近所住民9名の参加で開催している。ホーム内を案内することから始まり、緊急時災害協力体制にまつわる事や地域行事に関する事等忌憚のない意見、感想が聞かれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回の実習生の受け入れと運営推進会議に出席するのみでこれまでの関わりは少なかった。地域との関係性の必要性も感じた事であり市町村には地域の橋渡しとして協力をお願いしたい。	○	共生型施設としての関わりに加え、認知症高齢者施設として地域住民に理解してもらえるように、市町村や地域包括支援センターと連携を密にし、社会資源となるよう取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「ながさか通信」、小遣い帳の明細等を入れて送付している。面会時には健康状態や小遣い帳の確認してもらい、体調の変化や通院時の様子は、その都度電話等で連絡をしている。面会の回数も少なくなっているため、ホームの行事に参加を呼びかけ来訪の機会をつくるようにしていただきたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の受け口等も整っており、今後も、面会時等に気軽に話していただけるよう配慮したいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	和室の掘りごたつを囲み、入居者は終日そこで過ごしていることが多い。入居者や職員は外出時は「行ってきます」、帰宅後は「ただいま」と挨拶をするなど和やかに過ごしている。職員の異動は早めに入居者に伝え、皆で食事をしながらお別れ会をしている。入居者も受け止め理解している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間一人あたり3～5回の研修に参加し、定例会議で報告会をし、実践に向けている。資格取得の際は勤務表の調整をしたり、取得時は手当が配慮されるなど職員の励みとなっている。法人独自の自己評価に職員は年間の目標をたて、管理者が一次、二次評価をし、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人としてみやぎ共生ネットワークに加入し研修等に参加しているが、認知症高齢者支援事業についての情報不足を感じている。近隣の同業者との交流を望む意見を職員から聞かれたこともあり、考慮していただきたい。	○	県NPOグループホーム協議会に加入し、認知症施設の情報を得、近隣の施設との交流会、職員の交換研修等をし、より良いホーム作りをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族にホームを見学してもらい、様子を見たり、お茶を飲んだりしている。入居後も状況により家族の方にも3、4泊していただいたり、外出を多くしたり馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物作り、料理の味付けを教わったり、大家族で食卓を囲み、「お父さん、お爺ちゃん、お婆ちゃん」と想いを込めて呼び合うなど、生活を共にする事でお互いを思い合い、支えあっている事を感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や家族からの情報を基に、一人ひとりの思いを引き出し対応している。玄関を出て、門柱まで散歩を欠かさない方や、季節に応じた行事の際に本領を發揮され、雛人形の出し入れから飾り付けまで一切を受け持つ方など一人ひとりの思いを引き出しながら対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向、意見を取り入れ、アセスメントに基づき日頃のケアの気づきを反映した介護計画書が作成している。それを家族に説明し確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全員の介護計画書にそって状況の確認をし、毎月作成している。状態に変化のある時は、その都度見直しをしている。それをまとめて家族に状態報告としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、外出の付き添いなど、家族、入居者の要望に柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4ヶ所の医療機関を協力医院とし、月一回の往診、週に一回法人の看護師による入居者の状況や服薬の確認を行っている。かかりつけ医、専門医の通院には家族、看護師が付き添い、状況はその都度家族に連絡し報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における家族への話し合いは行われているが、具体的なものは進んでいない。事業所としてのできる事、できない事を明解にし、進めていただきたい。	○	重度化や終末期に向けた対応の方針を成文化し、入居者や家族の意向を確認して、意思確認書を取り交わし、職員の研修等も進めていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊敬の念をもって対応する事を基本に、その場、雰囲気に応じて、入居者から了解を得た呼び方をし、より家族的であることを強調していた。個人情報の取り扱いの確認は家族からとっている。書類は鍵つきの棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、家族の情報により、一人ひとりの生活の状況やペースで過ごせるように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2日に一度市内のスーパーに食材の買出しから始まり、一人ひとりの得意な事を發揮し、食事の準備から下膳まで入居者と職員で行っている。誕生日にはお楽しみ献立や、季節、行事にあった食事作りもしている。入居者の希望により、月2回近所の仕出屋さんからお弁当をとって食べる事も楽しみの一つである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を可能としているが、体調を見ながら声かけをしている。拒否をされる方には時間をかけて対応し、1日おきの入浴を実施している。自家製のゆず湯も楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状況に応じて、得意とすることを引き出し生活の中で發揮している。庭で取れた梅やゆずを使い、味噌やジャムを作ったり、食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、掃除、草取りなどをする方もいる。ドライブしながら食材の購入をするなど気分転換も図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの名所や庭園を散歩をしながら花を楽しんだり、2日に一度の食材の買出しや紅葉ドライブしたりと、外出の機会を多く取り入れている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの主旨を理解し、夜間みの施錠としている。玄関には、出入りがわかるよう風鈴をつけ、さりげなく気付けるよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定訓練を含め2回実施している。今回実施した事で災害に向け、地域に向けた非常ベルの音量の低さ、避難通路の確保、緊急通報システムの取り付けなど、改善点が確認されすでに取り組んでいる。備蓄は特でない。	○	地域住民に声をかけて協力を要請し、近隣住民と共に夜間想定訓練を実施することと、備蓄の準備をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士がたて、高齢者向けにホームのほうでアレンジしている。食事、カロリー、塩分等の制限の方には食事量で調整し、食事、水分、体重のチェック票に記入して状況を把握し、トロミ食、刻み食はその都度対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地に立派な庭、旧家を改造したゆったりとした、理想的な「家」である。玄関を入ると居間に大きな掘りごたつが設えてあり、終日そこで過ごされる方が多い。日当たりの良い広縁に長いすが置かれ、庭園を眺めながらのくつろぎの空間になっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳が敷かれ、収納スペースが多くすっきりと整えられていた。入居者の状態により畳の上にクロスを敷きベットを置いたり、馴染まれた家具、人形を飾ったり、暖簾をかけたりとそれぞれに工夫されていた。		